

原発性肺腺癌の発生・進展における女性ホルモン・炎症の役割に関する研究

・はじめに

従来肺がんのおもな原因としてタバコが挙げられていましたが、近年、タバコを吸わない人に発生する肺がんが増加しています。このタバコを吸わない人の肺がんは、タバコによる肺がんとは発生のメカニズムが違うのではないかと指摘する声もありますが、今のところはっきりしたことはわかっていません。

肺がんのうち、腺がんというタイプの患者さんを中心として、がん細胞の遺伝子の特定の場所に変異(正常細胞では見られない遺伝子の変化)が見つかる場合があります。上皮成長因子受容体(EGFR)というたんぱく質を作り出す遺伝子に変異がある患者さんでは、このたんぱく質の働きが極端に高まっており、これががん化の原因となっていることが近年わかりました。このEGFR遺伝子変異は男性よりも女性に多く、またタバコを吸う人よりも吸わない人に多いことがわかっています。

タバコを吸わない人の肺がんは、男性に比べ女性に圧倒的に多く、その原因に女性ホルモンの関与が疑われています。また、発がん・がん進展の環境要因として慢性炎症も注目されています。そこで本研究では、手術の際に採取した標本を調べ、肺がんにおける女性ホルモン・炎症の役割を調べ、肺がんのタバコ以外の原因を探求します。

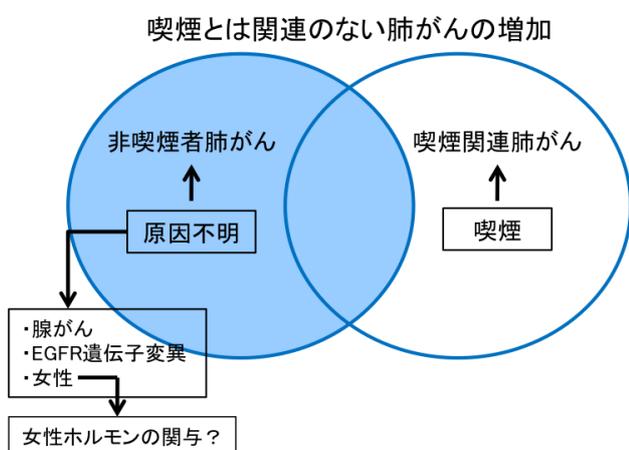


図1: 喫煙とは関連のない肺がんの増加

・対象

当研究は九州大学病院呼吸器外科(2)(第二外科)において、2007年4月1日から2012年3月31日までに原発性肺がんて手術を行った247名の患者さんを対象にしています。

なお、上記対象に該当する方で、当研究に参加することを希望されない場合は、お手数ですが下記連絡先にご連絡をお願いいたします。

・研究内容

手術の際に切除し、病理組織学的診断が完了した後の肺の標本を使用し、女性ホルモンや

炎症に関与している因子を調べ、喫煙歴や肺がんに関係する遺伝子変異などとの関連を調べます。

この研究を行うことで患者さんに日常診療以外の余分な負担が生じることはありません。

・個人情報の管理について

個人情報漏洩を防ぐため、九州大学大学院医学研究院消化器・総合外科学分野においては、個人を特定できる情報を削除し、データのデジタル化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしております。

また、本研究の実施過程及びその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

・研究期間

研究を行う期間は2015年3月31日までと考えております。

・医学上の貢献

本研究により被験者となった患者さんが直接受けることができる利益はありませんが、将来研究成果は肺がんの発症機序の解明及び新しい治療法の発見の一助になり、多くの患者さんの治療と健康に貢献できる可能性が高いと考えます。

タバコ以外の肺がんの原因が明らかになった場合、その原因や特性に応じた治療を行うことができ、治療の効果を上げることが期待できます。そのため、この研究でタバコ以外の肺がんの原因を調べることは大変有益で、医学上の貢献が十分にあると考えます。

・研究機関

研究責任者:九州大学大学院医学研究院 消化器・総合外科学分野 教授 前原 喜彦

研究分担者:九州大学病院 呼吸器外科(2) 診療講師 岡本 龍郎

九州大学病院 呼吸器外科(2) 臨床助教 須田 健一

九州大学病院 呼吸器外科(2) 医員 吉田 月久

九州大学大学院医学系学府 消化器・総合外科学分野 大学院生 河野 幹寛

九州大学大学院医学系学府 消化器・総合外科学分野 大学院生 北原 大和

九州大学大学院医学系学府 消化器・総合外科学分野 大学院生 島松晋一郎

共同研究者:なし

研究事務局:九州大学大学院 消化器・総合外科(第二外科) 医局

連絡先担当者:消化器・総合外科学分野 大学院生 河野 幹寛

〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

Tel:092-642-5466 (第2外科医局:平日8:30~18時)

092-642-5473 (第2外科病棟:夜間、休日)

Fax:092-642-5482

E-mail:kouno@surg2.med.kyushu-u.ac.jp